

年頭のご挨拶



日本通運健康保険組合 理事長 宮脇 一郎

新年明けましておめでとうございます。

被保険者ならびにご家族の皆さまにおかれましては、健やかに新しい年を迎えられたこととお慶び申し上げます。

また、平素より当健康保険組合の事業運営に対しまして、多大なるご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

私は、昨年4月に理事長に就任したところでございますが、本年も健全な健保運営に努めてまいりたいと存じますので、皆さまのお力添えをよろしくお願いいたします。

2021年の新春を迎えるにあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

昨年来、新型コロナウイルス感染症が世界的に流行し、日本国内においても未だ終息は見通せない状況です。

まずは、罹患された方やそのご家族に心からお見舞い申し上げるとともに、対応された医療従事者をはじめとするエッセンシャルワーカーの皆さまのご尽力に敬意を表します。

昨年は新型コロナウイルスの感染拡大によって私たちの生活が一変しました。

新型コロナウイルス感染防止のための新しい生活様式への転換が、社会全体の行動変容をもたらしました。

そのような中、コロナ禍の日常において、改めて健康であることの重要さが、強く認識されたことと存じます。

健康保険組合におきましては、昨今の景気低迷の状況を受け、財源である保険料収入の減少は避けられず、財政悪化が懸念されています。

かねてより健康保険組合を取り巻く環境は、加速する高齢化に伴う医療費の増加により、大変厳しい状況が続いています。

団塊の世代が75歳以上の後期高齢者となり始め、現役世代が負担する高齢者医療への拠出金が急激に増加する「2022年危機」が間近に迫り、健康保険組合の存続が危ぶまれていたところですが、コロナ禍により、その危機が一年前倒しとなる事態も想定されています。

誰もが安心して医療を受けられる国民皆保険を堅持するためには、健康保険組合の存続は不可欠です。

そのためには、現役世代に偏った負担を是正し、人生100年時代の到来を見据えた全世代型の社会保障への転換が急務です。

一方で、今年の3月からは、マイナンバーカードが保険証として利用できるようになる予定であり、利便性向上が期待されています。